

## 1. 基本方針

### ▷ 災害文化の創造拠点

#### ① 「防災環境都市・仙台」ならではの災害文化創造拠点

- ・東日本大震災をはじめ、歴史上、数々の災害に襲われながらそれらを乗り越え快適で防災力の高いまちを創り上げてきた知見や市民力を生かし、災害を受け止め、乗り越える術を文化として未来に向けて創造・継承し、内外に発信し続けることで各地の防災力向上に寄与する拠点
- ・仙台という都市に新たな価値と魅力を付加する拠点

#### ② 災害文化を市民のものとし、社会に実装する拠点

- ・災害文化の創造・実装を通じ、市民の誇りとなる仙台の新たなシンボル拠点
- ・市民、行政、企業、研究機関など多様な主体が参画・交流し、災害文化を社会の仕組みや日常生活に織り込んでいく拠点

### 整備の背景：4つの意義と役割

#### ○東日本大震災の記憶を呼び起こし続ける役割

- ・3.11を忘れず、市域全体の経験を今と未来を生きる市民の糧とするために

#### ○災害文化の意義を広め、日常に織り込む役割

- ・なぜ災害文化が必要かを説き、生活や社会システムに生かしていくために

#### ○防災環境都市・仙台としての責務を果たす役割

- ・多様な主体との協働を生かし、仙台から世界の防災力向上に貢献するために

#### ○これからを生きる人に求められる「意識」と「ふるまい」を探求する役割

- ・世界中の人が、想定外の災害や困難に対し災害文化的姿勢で挑むために

## 2. 機能

|          |  |
|----------|--|
| ①アーカイブ機能 | 災害の経験を市民とともに蓄積・発信・共有する機能                           |
| ②展示機能    | 人や時代に応じ視点や構成を変えながら災害経験を表現する機能                      |
| ③交流連携機能  | 多様な層が交流連携し対話や議論を通じ災害文化の創造や発信を行う機能                  |
| ④活動支援機能  | 様々な気づきや課題から災害文化の創造に導くコンシェルジュ機能                     |
| ⑤シンボル機能  | 災害の記憶を日常の中で呼びかける機能<br>災害文化を生活や社会システムに織り込むトッランナー的機能 |
| ⑥ハブ機能    | 情報を収集し、各地を繋ぎ、発信する機能                                |

※各機能は相互に関連する。

※シンボル機能は音楽ホールと共に、複合整備の軸である3.11を未来に刻み続ける機能となる。

## 3. 事業

|     |   |
|-----|---|
| ①認知 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○東日本大震災をはじめとした過去の様々な災害を知り、経験や被災された方の想いを分かち合うアーカイブを市民とともに創り、共有し、地域の防災力向上に生かすために活用を促していく。</li> <li>○災害の記録や記憶が伝わり、新たな災害文化の創造につながるような展示等の発信・共有企画を、時代や技術の変化に応じ、文化芸術の手法も取り入れながら実施する。</li> <li>○災害は発生することを認識した上で、自分を、社会を守る人を育て続ける。</li> </ul> |
| ②創造 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害に備え、乗り越えるため、市民、企業、研究機関、行政など、防災分野に留まらない多様な人々が交流し、自由な対話ができる場や機会を提供する。</li> <li>○企業や災害関連の活動団体、研究機関等と連携し、様々な主体が抱える課題を洗い出し、解決に繋がる支援を行う。</li> <li>○災害文化の創造に繋がるワークショップなどを自ら開催または支援し、市民や若者の学びを促進する。</li> </ul>                              |
| ③実装 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害文化を社会や日常生活に組み入れる工夫や仕組みづくりを行う。</li> <li>○3.11被災各地と連携した東日本大震災特別展やメモリアルコンサートなどを通じ、3.11の経験と想いを未来に継承し続ける役割を果たす。</li> <li>○災害への関心が薄れることを防ぎ、防災減災意識を向上させるため、毎月11日や過去の災害発生日などに広く市民が参加できるイベントなどを開催する。</li> </ul>                              |
| ④発信 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○3.11の被災各地と連携し、各地の伝承施設や取り組み、訪れるべき場所などを紹介するゲートウェイ機能を果たす。</li> <li>○災害文化を鍵として世界各地を繋ぎ、人や情報が行き交うネットワークを形成する。</li> <li>○国際機関や研究機関と連携し、文化芸術も含めた災害文化の意義を世界に発信する。</li> </ul>   |

## 4. 施設

| エリア      | 必要なスペース                                   | 床面積の想定   |
|----------|---|----------|
| アーカイブエリア | アーカイブライブラリー、レコーディングスペース、編集室等              | 300㎡程度   |
| 展示エリア    | 常設展示スペース、企画展示スペース、展示開発室等                  | 550㎡程度   |
| 交流連携エリア  | 多目的カンファレンスホール、ミーティングスペース<br>災害文化キッチン・カフェ等 | 500㎡程度   |
| 活動支援エリア  | 相談カウンター、ラボ、ワークショップスペース等                   | 300㎡程度   |
| シンボルエリア  | エントランス・イベントスペース<br>メモリアル・クワイエットスペース       | 600㎡程度   |
| ハブ機能エリア  | インフォメーションスペース                             | 100㎡程度   |
| その他      | 事務室、機械室等                                  | 650㎡程度   |
| 合計       |   | 3,000㎡程度 |